

タンポポとアザミ

東京で桜が散り始める4月の中旬から、雑草が元気になってきます。気温も15度を上回り、春が来たな・・と思える季節です。道端のあちこちにタンポポが顔をだしてきます。

タンポポと言えば黄色の花が特色。多くの種では黄色い花を咲かせ、綿毛(冠毛)のついた種子を作り生命力の強い植物で、アスファルトの裂目から生えることもあります。

50センチメートル以上もの長い根を持ち、最大で1メートル程度まで伸びるタンポポも珍しくないそうです。

タンポポは根の浅いうちに引き抜かないとなかなか抜けない厄介な植物です



タンポポは大きく分けると古来から日本に生育していた在来種と、近世に海外から持ち込まれた外来種があります。



アザミはタンポポとそっくりの体つきをしていますが、一番の違いは花の色とトゲです。綿毛のついた紫や赤の花がアザミで葉や茎にとげがついているのが特色です。

花がついていない時、タンポポだと思いアザミを素手で抜こうとして痛い思いをした人は多いのではないですか？アザミを抜くときは、必ず手袋をしてください！

アザミの名は「アザム」からきているといえます。「アザム」には「驚きあきれる」とか「興ざめする」の意味があり、花が美しいので手折ろうとするとトゲにさされて痛いので、「驚きあきれ、興ざめする」ということからこの名前がついたらしいです。

昔、イギリスで、スコットランドとイングランドが戦争をしていた時、この痛いトゲでスコットランドを守ったことから、今もスコットランドの国(地方)の国花となっています。

